風水害の危険が迫ったら

→ 風水害発生時の行動と判断

→ 避難時の注意点

状況別行動ガイド

→ 台風に備える

→ 集中豪雨に備える

→ 土砂くずれに要注意

→ 避難勧告が出たら

風水害発生時の行動と判断

襲来前

行動と判断

家の外を整える

- 窓や雨戸の戸締まり
- 倒れたり飛ばされたりしやすいものの固定・撤去
- 水はけの悪い場所の掃除

非常時の備え

- 懐中電灯の準備
- 水、食料の確保
- 非常持ち出し袋のチェック
- 必要な場合は家具の移動、危険物のチェック等安全点検を行う

通過中

行動と判断

風水害情報のチェック

テレビやラジオから最新情報を入手できるようにする。大学のHPもチェックする。

すみやかな避難

避難勧告が出た時や危ないと感じた時は、近所の人と連絡を取り合いながら早めに避難をする。避難方法や避難場所は事前に確認しておく。

危険な場所に近づかない

高潮や浸水、土砂災害の発生しそうな場所には近づかない。

応急手当

行動と判断

浸水後の消毒

浸水があった場合は、伝染病予防のために家や家具を消毒。

危険の確認

- 灯油など危険物の漏れ出しがないか確認
- 電線の断線を発見したら電力会社か役所、消防署、警察署などに通報

状況別行動ガイド

台風に備える

台風は事前に予測できる自然災害。規模や襲来時間などの情報を正確にとらえ、必要な準備をして臨機応変な行動ができるようにしましょう。

台風の強さ

呼び方	最大風速(m/s:秒速)
台風	17m/s 以上 33m/s 未満
強い台風	33m/s 以上 44m/s 未満
非常に強い台風	44m/s 以上 54m/s 未満
猛烈な台風	54m/s 以上

風の強さと被害想定　※風速は目安です

10m/s	雨傘をさすと壊れることがある
15m/s	取り付けの悪い看板が飛ぶことがある
20m/s	まっすぐ立っていられず、風に向かって歩きにくい
25m/s	屋根瓦が飛ばされ、樹木が折れる
30m/s	屋根が飛ばされ、家や電柱が倒れることもある
35m/s	列車の客車が倒れることがある
40m/s	身体を45度に傾けないと倒れる
50m/s〜	たいていの木造家屋が倒れる。樹木は根こそぎ倒れる

集中豪雨に備える

集中豪雨は、狭い地域に突発的に降るため、台風よりも予測が困難です。自分がいる場所の土地条件や環境などを把握し、十分な対策を。特にがけ付近や造成地、扇状地などでは気象情報に注意しましょう。

1時間の雨量と降り方

10〜20mm	雨音で話し声がよく聞こえない
20〜30mm	どしゃ降り。側溝や下水、小さな川があふれる
30〜50mm	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる
50〜80mm	滝のように降る。土石流が起こりやすい。車の運転は危険
80mm以上	雨による大災害発生の危険あり。厳重な警戒が必要

気象庁が発表する注意報・警報(京都地方気象台の基準)

大雨注意報	大雨によって災害が起こる恐れがある場合
大雨警報	大雨によって重大な災害が起こる恐れがある場合
洪水注意報	洪水によって災害が起こる恐れがある場合
洪水警報	洪水によって重大な災害が起こる恐れがある場合
強風注意報	強風によって災害が起こる恐れがある場合(平均風速 陸上12m/s以上)
暴風警報	暴風によって重大な災害が起こる恐れがある場合(平均風速 陸上20m/s以上)

土砂くずれに要注意

多量の雨が降って土の中にしみこむと、土と土の粒子が流動化し、くずれやすい状態になります。そして、ある限度を超えると一気に土が押し流され土砂くずれになります。家のそばに高さ4m以上のがけがある場合は、次の兆候に注意し、不安があればすぐに避難しましょう。

土砂くずれの兆候

- 雨がやんだのに、いつまでもわき水がでる
- 斜面から小石や土がパラパラ落ちてくる
- わき水や渓流が急に濁る
- 地面にひび割れができる
- 山鳴りがする

避難勧告が出たら

台風や集中豪雨の時は、テレビやラジオに注意し、最新の情報を入手するよう努めることが大切です。一定の基準雨量を超えると避難勧告が発令され、報道機関や自治体、消防署、警察署から避難が呼びかけられます。指示に従って、速やかに避難しましょう。

避難時の注意点

- 避難の前にガス・電気・火の元を点検（ブレーカーや元栓を閉める）
- できるだけ一人での避難は避け、近所で声をかけあう
- 近所のお年寄りなどの避難には積極的に協力する
- 避難場所を確認し、万一家族や友人と途中で離ればなれになった時の集合場所を決めておく